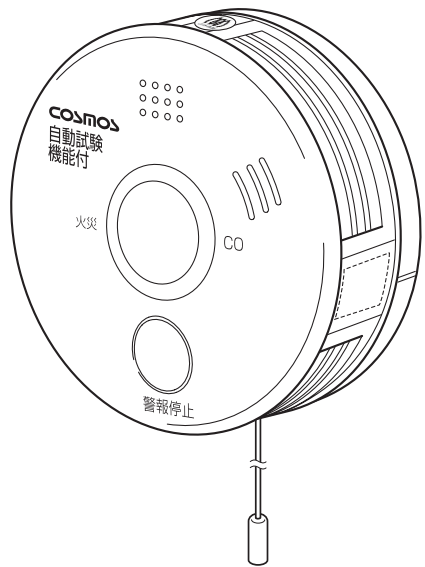


施工説明書【施工される方へ】

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。

住宅用火災(煙式)・CO警報器

型式名 SC-285E



C285ECS_02_

1 お願いとご注意

- 警報器の取り付けは、この施工説明書に従って、指定された取り付けを行ってください。
- 取り付け終了後に、必ず動作確認を行ってください。万一、作動不良があったときは交換してください。外部機器と接続される場合は、外部機器の取扱説明書および設置工事説明書に基づいて動作確認を行ってください。
- 取り付け終了後に、「警報器の説明」「お客さまへの周知事項」について、必ずお客さまに説明してください。
- 取り付け前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、下記の表示で区分しています。

警告 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

警告

- 分解や改造はしないでください。故障の原因となります。
- 取付期限を過ぎた警報器は、取り付けないでください。正常に動作しないおそれがあります。取付期限は、警報器のセンサが十分な性能を発揮できる取り付けまでの期限であり、個装箱に記載してあります。
- 警報器の取り付け、取り外し、動作確認などを行うときは、安定した踏み台を使い十分注意してください。転落・転倒・落下によるケガのおそれがあります。
- 警報器を落下させるなど、衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- ライターの炎やタバコの煙などを使って、動作確認を行わないでください。火災や故障の原因となります。

注意

- 専用リチウム電池のコネクタは確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあります。
- 警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。警報の遅れの原因となります。
- 引きひもを強く引いたり、引きひもにぶらさがらないでください。転倒や落下のおそれがあります。
- 天井面に取り付ける場合、取付ベースの真下で取り付け作業を行わないでください。ねじの締め付け時に天井材のくずが目に入るおそれがあります。目に入った場合は、ただちに洗い流してください。
- 付属の取付ねじを使用して確実に取り付けてください。両面テープなどで取り付けると、落下によるケガやものが破損するおそれがあります。
- 取付ベースや警報器本体の取り付けは、確実に行ってください。落下によるケガやものが破損するおそれがあります。
- 警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。聴力障害などの原因になるおそれがあります。
- 正しい取付位置に取り付けてください。取り付けてはいけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

2 取り付け前の確認

2-1 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

本体…1 個	取付ベース…1 個 (本体に取り付けられています)	石膏ボードピン…5 本
	専用リチウム電池…1 個	引きひも…1 本
		(本体に取り付けられています)
取付ねじ…2 本	取扱説明書(保証書付)…1 枚 施工説明書(本書)…1 枚	

2-2 設置する前に

警報器本体・保証書への必要事項の記入

- ① 本体の交換期限記入欄に、交換期限を記入する。

交換期限	20 年 月 日
記入欄	

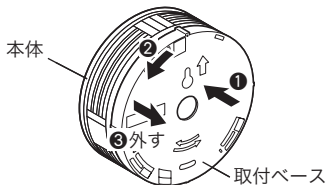
- ② 付属の取扱説明書(保証書付)にお取り付け年月日・お客さま情報・販売店(実施者)情報を記入する。

専用リチウム電池の取り付け

注意

- コネクタの接続にドライバーなどを使用しないでください。コネクタが破損したり、専用リチウム電池がショートする原因になります。
- リード線の赤(+)と黒(-)の向きを間違えないように、確実に差し込んでください。
- 専用リチウム電池の外装フィルムは電池を保護するものです。はがさないでください。
- コネクタには極性があり、逆向きには接続できません。

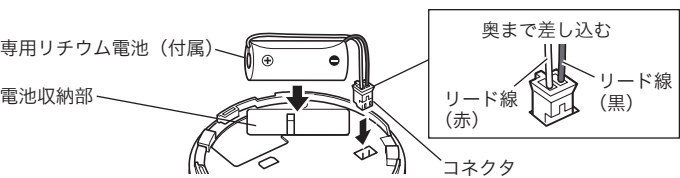
- ① 取付ベースを本体側に押し付けながら、左(反時計回り)に回して、取付ベースを外す。



おねがい

取付ベースを引っ張りながら回さないでください。取り付け時の本体落下防止の安全ロック機構が動くため、取付ベースは外れません。

- ② 専用リチウム電池(付属)のコネクタを警報器に接続する。



※専用リチウム電池のコネクタを接続すると、約30秒黄ランプが点灯した後、「ピー 正常です」とお知らせします。

- ③ 電池を電池収納部にはめ込んで取り付ける。

引きひもの取り付け・取り外し、長さ調節

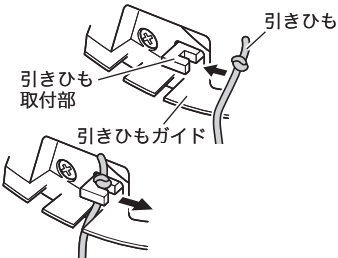
引きひもの取り付けについては、お客さまのご要望をお聞きし、引きひもの取り外し、または長さ調節をしてください。

警告

警報器を天井面に取り付ける場合は、引きひもを取り外してください。引きひもを強く引くと、本体の落下により、お客さまがケガをするおそれがあります。

〈引きひもの取り付けかた・取り外しかた〉

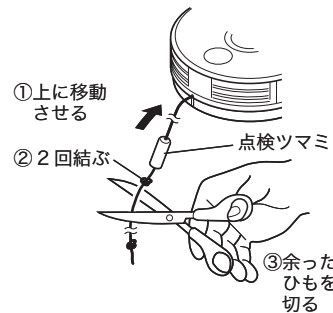
取り付けかた
引きひもを引きひも取付部に通した後、引きひもガイドに収める。



取り外しかた
引きひもを矢印方向に引く。

〈引きひもの長さの調節方法〉

- ① 点検ツマミを上に移動させる。
- ② 適当な長さとなる部分で2回結ぶ。
- ③ 点検ツマミの先の余ったひもを切る。



2-3 取付位置の確認

※設置および維持基準は、政省令で定める基準にしたがい、市町村条例で定められています。各市町村によって設置場所が異なる場合がありますので、各市町村が定める火災予防条例を確認してください。

設置場所は、お客さまとよく相談してお決めください。

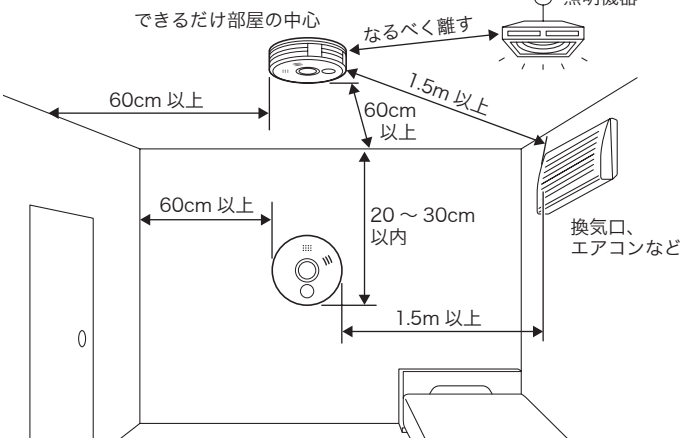
注意

正しい取付位置に取り付けてください。取り付けてはいけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

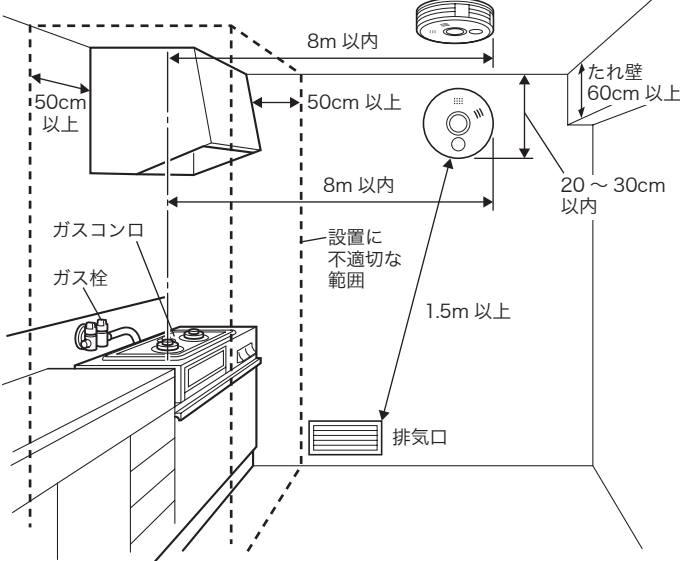
正しい取付場所について

- この警報器は、以下のような場所への設置をおすすめします。台所、居室、寝室、階段、廊下
- 警報器のスイッチ(点検、警報音停止兼用)が操作しやすく、ランプが見やすい位置に取り付けてください。

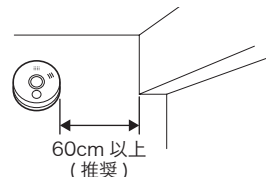
【居室に取り付ける場合】



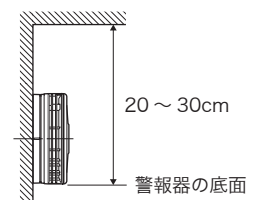
【台所に取り付ける場合】



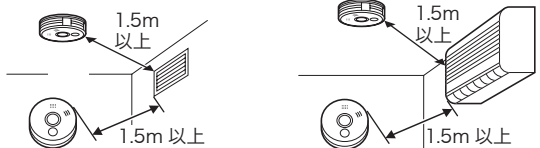
- 壁面に取り付ける場合は、できるかぎりたれ壁やはりから60cm以上離してください。



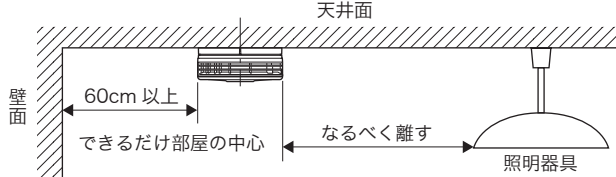
- 壁面に取り付ける場合は、警報器の底面から天井面までの距離が20~30cm以内の位置に取り付けてください。



- 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。



- 天井面に取り付ける場合は、壁やはりから60cm離れた位置に取り付けてください。

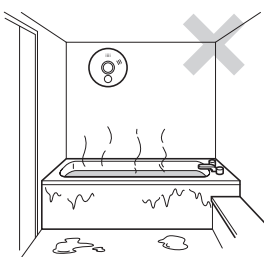


- COを検知しようとするガス機器(一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓)から、水平距離で8m以内に付けてください。

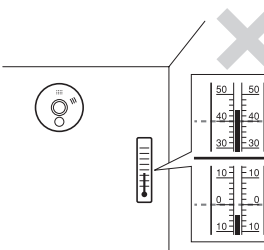
2-4 取り付けてはいけない場所について

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

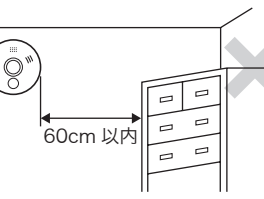
- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所、結露する場所。感電や電氣的故障の原因になります。



- 温度が0℃~+40℃の範囲をこえる場所。警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。

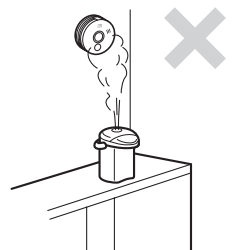


- タンスなどから60cm以内の場所。



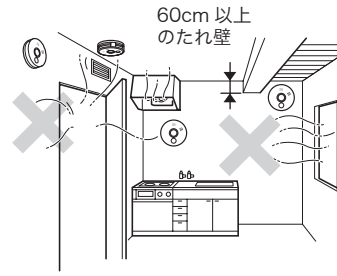
- ホコリや虫の多い場所。

- 火災以外の煙や蒸気がかかる場所、車庫など。

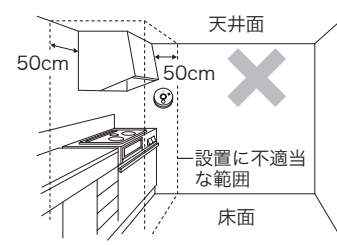


- 屋外。屋内専用です。

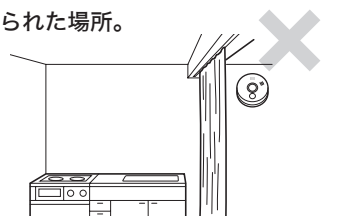
- 60cm以上のたれ壁で区切られている場所。
- 換気口、エアコンなどの吹出口に近い場所。
- 換気扇、扇風機、ドアの近くやすきま風の強いところなど空気の流れが激しい場所。警報が遅れたり、検知できないことがあります。



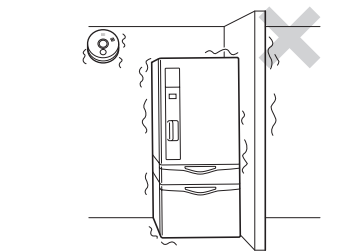
- レンジフードから50cm以内の場所。



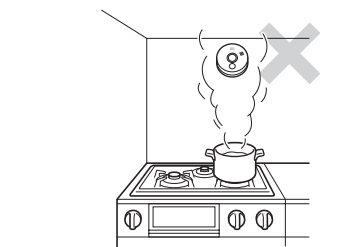
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。



- 振動、衝撃の激しい場所。センサの故障の原因になります。



- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。



3 取り付けかた

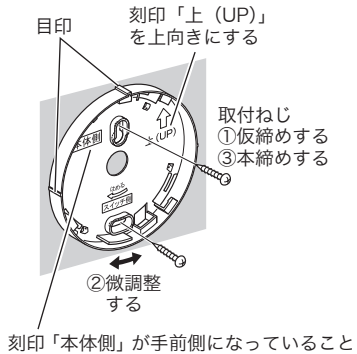
⚠ 注意

- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けないでください。
- 取付強度を保持するため、取付ねじ、石膏ボードピンは根元まで差し込んでください。万一、ゆるんだ場合は、取付位置をずらして付け直してください。
- 取り付けには、両面テープを使用しないでください。
- 天井面に取付ける場合、石膏ボードピンを使用しないでください。

3-1 取付ベースの取り付け

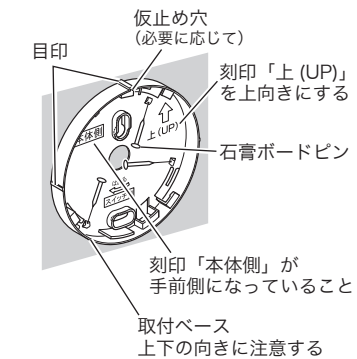
壁面に取り付ける場合（取付ねじ2本で固定する）

- ① 取付ベース外周部の目印が壁面の目地などと平行または垂直になるように、取付ベースを図のように取付ねじ（2本）で壁面に仮締める。
- ② 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- ③ 取付ねじ（2本）を本締める。



石膏ボードの壁面に取り付ける場合

取付ベース外周部の目印が壁面の目地などと平行または垂直になるように、取付ベースを図のように石膏ボードピン（3本）で壁面に固定する。



〈確認〉

取付ベースが、壁面に密着していることを確認してください。

両面テープによる取付禁止

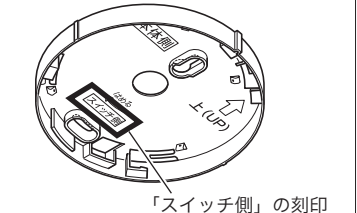
天井面に取り付ける場合

⚠ 警告

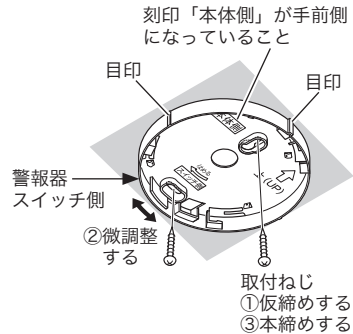
- 取付ベースの真下で取り付け作業を行わないでください。ねじの締め付け時に天井材のくずが目に入るおそれがあります。目に入った場合は、ただちに洗い流してください。
- 引きひもを取り外してください。引きひもを強く引くと、本体の落下により、お客さまがケガをするおそれがあります。
- 石膏ボードピンを使用しないでください。

おねがい

警報器を取付ベースに取り付けたとき、取付ベースの「スイッチ側」の刻印がある方向に、警報器のスイッチが配置されます。スイッチが見やすい方向を考慮して、取付ベースを取り付けてください。



- ① 取付ベース外周部の目印が天井の目地などと平行または垂直になるように、取付ベースを図のように取付ねじ（2本）で天井面に仮締める。
- ② 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- ③ 取付ねじ（2本）を本締める。

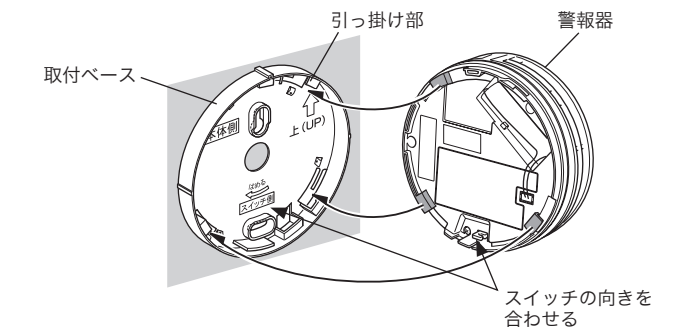


〈確認〉

取付ベースが、容易に脱落しないことを確認してください。

3-2 警報器の取り付け

- ① 取付ベースの刻印「スイッチ側」と警報器のスイッチ裏側の溝（3箇所）の位置を合わせる。



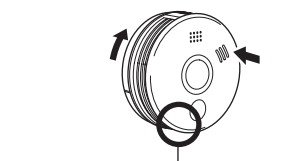
おねがい

引きひもが引きひもガイドに収まっていることを確認してください。確実ににはまっていない場合、引きひもを正しく操作できなかつたり、警報器を取付ベースから外すことができません。

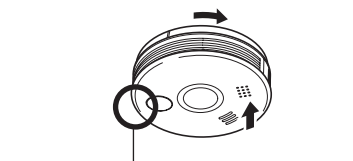


- ② 本体を押し付けながら、右（時計回り）に回して固定する。

壁面取り付けの場合

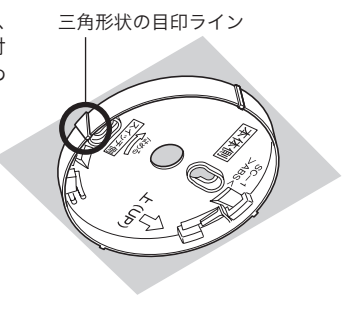


天井取り付けの場合



おねがい

本体を取付ベースに固定するときは、上図の三角形の目印ライン（取付ベースの「スイッチ側」）で位置合わせをしてください。

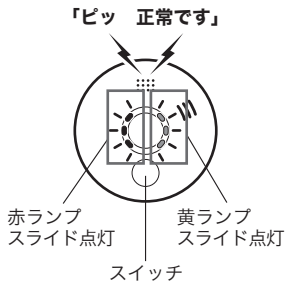


4 取り付け後の動作確認

⚠ 警告

- ライターの炎やタバコの煙などを使って、点検を行わないでください。火災や故障の原因となります。

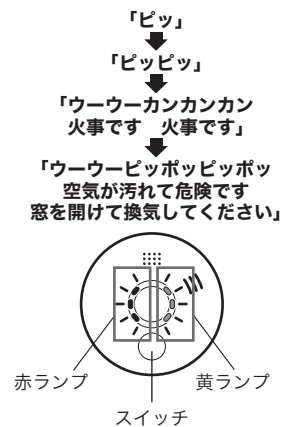
- ① 警報器が警報動作中や警報音停止中ではないことを確認する。
- ② スイッチを約1秒操作する。「ビッ 正常です」が鳴り、赤・黄ランプがスライド点灯すれば正常です。



- ◆ 以下の異常などがないか確認できます。
- 煙感知部の異常
- CO 検知部の異常
- 電源異常

■外部機器との連動点検

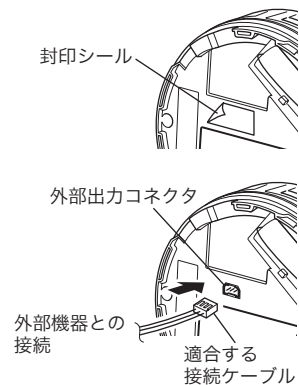
- ① スイッチを約3秒操作する。「ビッ」の後に「ビッビッ」と鳴ります。
- ② スイッチから手を離す。
 - 1) 「ウーウーカンカンカン 火事です 火事です」と鳴り、赤ランプがスライド点灯します。
 - 2) 「ウーウービッポッビッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」と鳴り、黄ランプがスライド点灯します。
 - 3) 赤・黄ランプがスライド点灯します。
 - 4) 赤・黄ランプがスライド点灯している間、連動出力信号を出力します。外部機器が連動動作を行っていることを確認してください。
- ③ 1分経過するまで待つか、もう一度スイッチを操作する。「ビー」と鳴り、終了します。
 - ※ 連動出力信号の出力も停止します。
 - ※ CO警報出力は電源投入後約25分間のみ出力します。それ以降は連動点検をしても出力しません。



5 外部機器との接続

5-1 接続ケーブルの取り付け

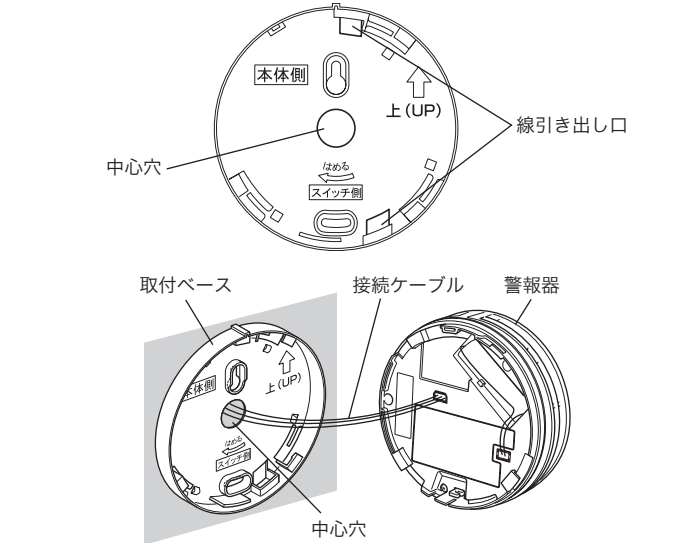
- ① 警報器の背面に貼り付けられている封印シールをはがす。



- ② 適合する接続ケーブルを外部出力コネクタに差し込む。

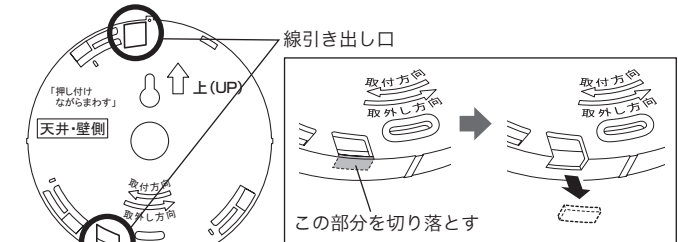
- ③ 取付ベースの中心穴か上下の線引き出し口から、接続ケーブルを取り出す。

取付ベースの中心穴から取り出す場合

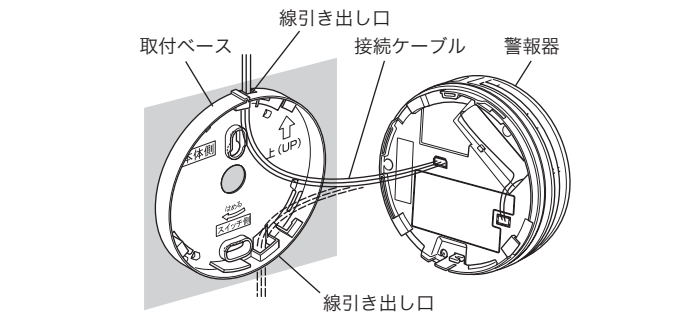


取付ベースの側面から取り出す場合

- ① 取付ベースの線引き出し口を、ニッパーなどで切り落とす。



- ② 接続ケーブルを線引き出し口に通して引き出す。



- ④ 警報器を取付ベースに取り付ける（「3-2 警報器の取り付け」参照）。
 - ※ 警報器を取り付ける際は、接続ケーブルが取付ベースに引っかからないように注意してください。

6 お客さまへの説明について

警報器の取り付け、点検が終わったら、お客さまに以下の説明を行い、ご理解を得てください。

6-1 警報器の説明

- ① 警報動作および点検結果の説明。
- ② 取扱説明書を必ず読んでいただくことをお願い。
- ③ 保証書および取扱説明書の保管をお願い。
- ④ 取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
 - （取扱説明書「3. 警報器のお知らせ機能について」参照）
 - 1. 火災警報の内容（赤ランプ点灯、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 - 2. CO警報の内容（黄ランプ点灯、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 - 3. 部屋の外にいて、CO警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
 - 4. 誤報が発生する原因と処置の説明。
 - 5. 下記機能の説明。
 - 機器故障音声機能
 - 電池切れ音声機能

6-2 お客さまへの周知事項

- ① 保証期間のお知らせ。
- ② 警報器の交換期限のお知らせ。（本体の交換期限記入欄に表示）
- ③ 保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- ④ 警報器の移設禁止。（移設依頼の連絡先）
- ⑤ 警報器の分解禁止。
- ⑥ 引越時の処置。
- ⑦ 故障・異常時の連絡先。
- ⑧ 定期点検の実施。

5-2 外部機器との接続

他の火災警報器と連動させる場合

※ 火災警報出力は火災相互連動専用です。

- ① 相互連動コネクタ線（別売品：型式名 LL-01）を外部出力コネクタに接続する。
- ② 他の火災警報器と接続する。

無線ユニット（別売品）によって、無線連動をさせる場合

無線ユニット（別売品）を接続することで、他の警報器と無線による通信を行うことができます（連動先の警報器にも無線ユニット（別売品）を接続する必要があります）。無線ユニットの取り付けに関しては、無線ユニットに付属の説明書を参照してください。

CO 警報信号を外部機器に出力する場合

CO 警報信号はトランジスタオープンコレクタ式で接点容量はDC30V、100mA（抵抗負荷）です。接点容量以内で、接点入力型の住宅情報盤などに接続できます。（接点容量をお確かめのうえ、ご使用ください）
外部機器と接続するには、接続ケーブル（別売品：型式名 LL-13）が必要です。

（接続例）

